

●スーパーカブの発展

スーパーカブは日本での誕生以来、欧米やアジアなど広く世界中に受け入れられ、2018年現在、延べ160以上の国と地域^{*1}で販売され、地域ごとに異なるお客様の要望に応じてきました。

日本では、道路など使用環境整備が進み二輪ラインアップが多様化する中で、スーパーカブは主にビジネスバイクとして普及し、燃費などの経済性を中心に進化させてきました。

一方、東南アジアでは、日本同様、経済性や使い勝手を損なうことなく、幅広い年齢層に応えるファミリーユースを中心とした、1家に1台、あるいは1人に1台の「自家用車」として一貫したニーズに応じてきました。

これらによりスーパーカブシリーズは燃費性能の進化のみならず、世界生産累計一億台の内7割近くを占める東南アジアのお客様^{*2}の要望に磨かれた工業製品として、動力性能や乗り心地の飛躍的な進化を遂げてきました。このように各地域での進化が一台の内に取り入れられて発展を遂げているのが、現在のスーパーカブの姿であり、その発展は決して一国のみの市場規模変化により左右されない進化、すなわち「世界的視野」という創業者の思想の確かさを体現するものであると考えています。

※1. Honda調べ

※2. Honda調べ 国、地域、モデル別での販売台数集計が可能な1985年以降での数値



●は、スーパーカブシリーズの生産国 (2018年6月現在)

※ 排気量49cc~125cc、エンジン型式：4ストローク単気筒エンジン、低床バックボーンフレーム、14インチ以上のタイヤなどの条件を満たすバイク。